

学都屋台食談

第8回

カジグループ
代表取締役社長

梶 政隆 氏
かじ まさたか

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、講師と学生が語り合う「学都屋台食談」を11月6日から11月19日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催しました。2006年から今年で13年目を迎えた食談で、講師が語ったメッセージを紹介します。

強みを持つだけでなく 活用する思考が重要

皆さんはかつて繊維産業が日本経済を支える基幹産業だったことをご存じですか。特に、北陸は昔から繊維産業が強く、石川県では今でも3番目に大きな雇用を生んでいきます。しかし、かつて隆盛を誇った多くの企業が姿を消し、業界は斜陽と呼ばれて久しくなりました。

私が社長を務めるカジグループも繊維の会社です。ただ、ちよつと独特で、糸の加工から生地を生産、縫製まで手掛けるだけでなく、繊維会社向けの工業機械までも社内で製造する世界でも珍しい繊維メーカーなんです。こうした一貫生産体制と技術力が評価され、国際的なラグジュアリーブランドやアウトドアブランドなどに製品を採用してもらっています。

とはいえ、このような強みがある当社でも、下り坂の業界にあつて厳しい状況が長く続きました。これからの時代、企業でも個人でも、おそらく自分の強みを持つだけでは足りなくなるでしょう。強みをどう生かすか考え、自分の可能性を広げる挑戦を続けていかなければ、やがて姿を消すことになるはずです。

語れる理念を持つて コミュニケーションする

今、当社では二つの方向から自分たちの可能性を広げようとしています。一つは、メデイカル分野への技術の展開。もう一つが、表に出て自分の名前を勝負することです。

前者では、繊維の加工技術を応用して、人工血管や炭素繊維製の義肢、着るだけで体温や心拍数など生体情報を取得可能なウェアラブル製品を開発しています。一方、後者では3年前にトラベルグッズブランド、2年前に紳士服ブランド、今年10月にはレディースブランドを立ち上げました。

新しいことにチャレンジすれば、新しい人との出会いがあるものです。こうした取り組みが実ったのも、異分野の人たちの協力があったからだと言えます。もちろん、ビジネス



参加
学生

前列左から福井瑞穂さん(金沢星稜大学3年)、水野真衣さん(金沢大学3年)、後列左から、宮澤攻さん(金沢医科大学4年)、山本武尊さん(金沢工業大学3年)、朝倉毅さん(金沢美術工芸大学2年)

ですから損得勘定もあつたでしょう。

ただ、それ以上に、当社が「業界の閉塞感を打破するため、石川から繊維の新しい可能性を発信したい」という理念を持ち、こちらから積極的にコミュニケーションをとつたからこそ、力を貸してくれたのだと思つています。

特に、自社ブランドの展開は、既存の取引先にとって宣戦布告にとられかねない決断でした。もちろん、競合しないジャンルへ進出しましたが、スムーズにブランドを立ち上げられたのは、取引先と密にコミュニケーションし、理念を語ってきたからこそでしょう。

遊びからの学びが 自由な発想の源泉に

ところで、皆さんは遊んでいますか。当社では、開発担当者や企画担当者、しっかりと遊ぶように言っています。新しい技術や商品を生み出すには、これまでの考えや経験に縛られない自由な発想が必要になるからです。

現代はネットで調べれば何でも分かつてしまふ時代です。しかし、実体験に基づかない知識が、実を結ぶことはほとんどありません。やはり、現場へ行き、見て、触つて、感じてこそ、自分の経験になりますし、それが自身の個性や魅力にもなります。

皆さんには、社会人になってからもしっかりと遊んで、アイデアやモチベーション、そして武器となる強みの源を、自分の中に目いっぱいため込んでほしいと思います。

競うより、持ち味創る遊び心を



講師

カジグループ
代表取締役社長

梶 政隆 氏

かじ・まさたか

1968年、石川県金沢市出身。中京大学社会学部卒業後、蝶理株式会社に入社し、6年間アパレル部門で営業。97年カジグループ入社。専務取締役を経て2010年から現職。「繊維業界の夢を実現していく」をコーポレートメッセージに掲げ、業界の発展に寄与すべく、繊維の可能性を精力的に発信している。